# Management Club Report

## May.2005/Vol.29

## Monthly Opinion　≪“私企業”として公益に貢献≫

**■ＪＲ西日本の脱線事故**

ＪＲ西日本福知山線の脱線事故が大問題となって世間の話題を独占しています。遭難された多くの方々のご冥福をお祈りすると共に、ご遺族や親しくなされていた方々の心に一日も早い安らぎの日が訪れることを願うばかりです。

さて、今回の事故を通して大きな社会問題となっていることに、ＪＲ西日本の会社の体質が取り上げられています。今までの調査から、事故原因とされている「スピードの出し過ぎ」が「時間に遅れることによる顧客満足の低下が会社収益に影響する」という意識からきているのではないかということや、ＡＴＳ装置導入によるコスト増を回避してきたことがスピードのコントロールを不能にしたというような「安全よりも利益優先」の体質が事故を誘発させたとするものです。

さらに社内での「ボーリング大会」や「慰安旅行」「ゴルフコンペ」などが、事故当日に各所で行われていたことなどが、火に油を注ぐ結果となって同社の体質に大きな疑問符が付くようになってしまいました。

これらの芋づる式に明るみに出てきた事象は、感情的には「ふざけるな！」という思いで一杯ですが、しかし冷静に考えますと、事故の発生や自己再発防止ということとの直接的な関係はありません。マスコミが特ダネを探すようにして掘り当て、世間の怒りをさらに煽り視聴率や販売部数を伸ばそうとしているように見えなくもありません。これらが労組関係者を中心とした内部告発から出ているとすれば、むしろそのような体質の方が組織としては問題ではないかと思います。

あまり感情的な精神論を社会が糾弾材料として使用しますと、「この国家挙げての非常時に女学生と話しながら歩くとは何事か！」などという本質とはかけ離れた、戦前のわが国に存在したと言う、超国家主義の「行き過ぎた社会風潮」の再来を想起させ、何とも言えない息苦しさを感じさせてしまいます。

本来、ＪＲ西日本には果たして「安全よりも利益優先」という体質が組織全体に浸透していたのでしょうか。「安全」と「正確」をコアとする鉄道ビジネスにおいて「安全」を軽視したところに顧客の「支持」は存在しませんので、結果として「利益」も発生しないことになります。このようにそもそも矛盾する概念である「安全よりも利益優先」という体質があったということは少し理解し難いことのように思えます。